# 身近な人から 薬物使用について 相談されたら

このパンフレットを通じて、

もし、あなたが身近な友達や大切な人から相談を持ちかけられた場合、 どう対応するかを考えるきっかけにしていただけたらと思います。 使用している人がどんな状況でいるのか、

どのようなきっかけで薬物を使用しているのか、

その背景をご紹介します。

薬物使用は精神的・身体的な健康課題であると同時に、 「生きづらさ」のひとつのサインでもあります。

## 薬物を使いはじめるきっかけ

インタビュー調査(C調査)で分かった、使用する主なきっかけは 次のようなものです。誰もが経験するかもしれない場面です。

## 好奇心から…

#### おしゃれな おしゃれな パージだったい、 パージだって 中間も使って 中間も使って かたから かっよくないし



「みんなと仲間になりたくて薬を使い 始めたけど、そのうち遊ぶお金も生 活費もなくなって、気がついたら仲 間はみんな離れていってしまった」

### 相手から誘われて…







「セックスを楽しんでいたつも りが、いつのまにかクスリが メインになっていた」

## 気分をアップさせるために…







「クスリを使ってまで仕事をが んばったのに、結果的にクス リで仕事を失ってしまった」

HIV陽性者を対象に行われた調査(A調査)では、55.0%の人がこれまでに何らかの薬物・ドラッグを使用した経験があると回答しています。薬物の種類による使用経験率(この1年に使った+過去に使ったことがある)を見ると、全体のうちラッシュは51.2%、ぼっき薬・ED薬は32.3%、5MeO-DIPT(ゴメオ)は25.6%、脱法ドラッグは17.3%、覚せい剤は11.1%のHIV陽性者がそれぞれ使用したことがあると答えています。この1年間の使用経験に限定すると、ぼっき薬・ED薬の使用が14.5%と最も多く、ラッシュ10.0%、脱法ドラッグ4.8%と続きます。

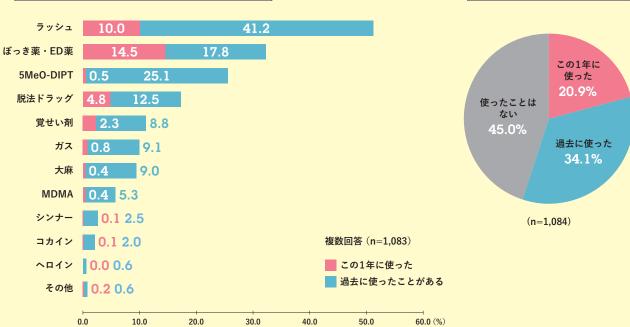
薬物使用経験のあるHIV陽性者が初めて薬物を使用した時期については、HIV感染が判明する前から使用していた人が、感染を知った後に使用し始めたという人よりも多いという結果でした。

また、セックスの時に薬物が併用されることが多くあることが、調査からは明らかになっています。薬物使用はより性に関連した健康課題であり、出会いや恋愛など、人間関係を広げる過程で出会う可能性のある課題だともいえます。

※薬物のうち、5MeO-DIPTは2005年、ラッシュは2006年、脱法ドラッグ (危険ドラッグ)の一部は2014年まで、それぞれ法規制の対象外でした。

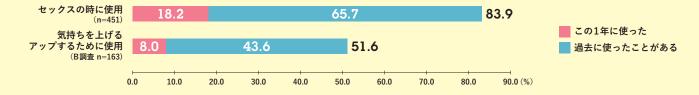
## どれくらいの人が薬物を使っているか

## HIV陽性者と薬物使用

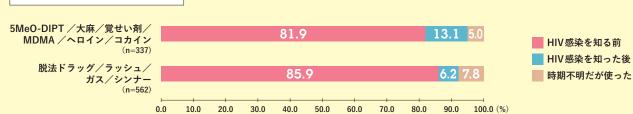


※ぽっき薬・ED薬という回答には、医師から処方されたもの以外に、インターネット、他者から入手したものも含まれていると考えられる。

### どんな時に薬物を使うのか



## 薬物を初めて使った時期



Н

٧

陽性者全体

## 薬物使用の影響

## 薬物使用とメンタルヘルス

#### 使用経験あり 48.7 36.4 14.9 (n=585)使用経験なし 27.9 9.8 (n=469)10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0 (%) K6得点: 0~4点 5~12点 13点以上

精神健康度 K6という心の健康を測定する尺度によると、薬物使用経験のある人の方が、使用していない人と比べて精神的な健康度が悪い傾向にありました。 ※この尺度では、高得点ほど精神的健康が悪い。5点以上で、心に何らかの負担を抱えている状態、13点以上で深刻な問題が発生している可能性が高いといわれている。カットオフ値:5点/13点。

## 薬物使用とHIV感染

薬物を使用することで、セックスの時にコンドームを使用することが難しくなりがちなことが分かっています。それによりHIVはもちろん、HCV(C型肝炎ウイルス)や性感染症などに罹りやすくなります。また、HIVの通院治療の中断にもつながりがちであるとの報告もあります。さらに、いくつかの薬物の中にはHIV治療薬との相互作用によって重篤な副作用を起こしてしまうものもあるので、注意が必要です。

## 相談状況や求められる情報

薬物を使用しているHIV陽性者は、実は専門家よりも身近な友達、パートナー、 HIV陽性者の知人に相談しています。また、以下のような情報が必要であると回答していました。

### 誰に相談しているのか

薬物使用経験

の

あ

る H

I V

陽

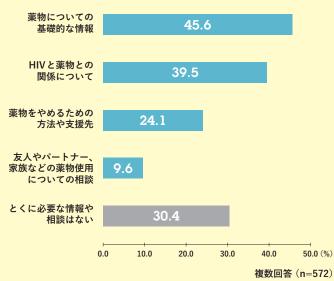
性

者

## 友人 43.5 パートナー・恋人・ 19.3 夫・妻 HIV陽性者の知人 13.7 HIV治療の医療者 親・きょうだい・ 親せき 3.5 精神科・神経内科 インターネット上の知人 3.0 薬物使用者の集まり (NA、ダルクなど) ボランティア・ 1.7 患者支援団体 薬物専門の医療機関 1.4 精神保健福祉センター 保健所 0.2 誰にも話したり、 45.2 相談したことはない

0.0

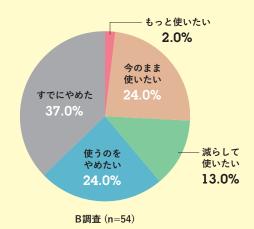
## 薬物について必要だと思う情報



40.0 50.0 (%) 複数回答 (n=575)

## 今後使用する/しない?

### この1年に薬物を使用した人(20.9%)の今後の使用意向



## 身近なあなたにできることは…

本人が話せる場所を増やすことは、身近なあなたにできることのひとつです。

薬物について相談できる場所には、専門のクリニックやNAなどの当事者同士が互いの回復を支援しあう自助グループ等があります。また、各自治体の精神保健福祉センターや保健所でも相談ができます。

周囲の目には問題があるように見えても、本人は問題ない、大丈夫という風に考えている場合は少なくありません。本人が必要ないと思っていても、まずは相

談できる場所についての情報を渡しましょう。いつか本人が必要だと思えるようになった時に、すぐにアクセスできる一助となるからです。

そして、もしあなた自身が迷ったり不安になった場合には、電話相談などを利用するとあなたの気持ちの整理に役立つでしょう。相談機関や専門機関はさまざまです。いくつか利用して、自分にあったところを探してみるのもいい方法です。

### 地域で利用できる機関やグループ、相談サービスについて

- 「ドラッグOKトーク」http://www.ok-talk.com/
  ドラッグの話、何でもOKなホットライン(☎ 090-4599-6444 /水・金12 ~ 18時)
- □ 「フリーダム」http://www.freedom-osaka.jp/ 薬物依存電話相談(☎06-6320-1196 /±15~19時)
- 応
  「ナルコティクス・アノニマス日本(NA Japan)」http://najapan.org/ 当事者同士が互いの回復を支援しあう自助グループ
- 応
  「ナラノン」http://www4.ocn.ne.jp/~nar633/ 薬物の問題をもつ人の家族や友人のための自助グループ
- ○「日本ダルク本部」http://www.darc-dmc.info/ 入所・通所型の薬物依存症リハビリ施設

- □ 「ご家族の薬物問題でお困りの方へ」 http://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/drug-top/ data/family/H25.family\_all\_date.pdf
- ➡ 「HIVマップ」http://www.hiv-map.net/
- □ Futures Japan http://futures-japan.jp/
- ☆ 「ぷれいす東京」http://www.ptokyo.org/
  HIV陽性者の相談サービスなど

詳しい情報は以下のWebサイトをご覧ください。

## 「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」 http://www.chiiki-shien.jp/

お問い合わせ先:〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403 特定非営利活動法人ぶれいす東京 研究事業部 kenkyu.jimu@gmail.com 調査概要:

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究(代表:樽井正義)

「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」

A調査…ACCと全国8地域のブロック拠点病院計9病院に通院するHIV陽性者1,786名を対象に無記名調査票を配布、1,100票回収(回収率61.6%)。2013年7月~12月実施。 B調査…中核拠点病院等22病院に通院するHIV陽性者687名を対象に無記名調査票を配布、369票回収(回収率53.7%)。2013年8月~2014年4月実施。 「薬物使用者を対象にした聞き取り調査」

C調査…薬物使用経験のあるHIV陽性者であり、ゲイ・パイセクシュアル男性/ MSM19名を対象に、個別での質問紙調査および半構造化面接を2013年9月~11月に実施。 ※グラフのデータは、記載があるもの以外はすべてA調査の結果をもとに作成しました。

調査にご協力・ご参加いただいた皆様に感謝します。

編集:地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究班 デザイン:新藤岳史 イラスト:しらいしろう 発行年月:2015年3月